

朝鮮半島情勢の現状と我々の立ち位置

昨今の朝鮮半島情勢をどのように見るのか。今こそ、『情勢観』が問われている。そもそも人々を突き動かす『観点』というものは人の情熱と行動を促す羅針盤となる。羅針盤がブレブレに揺れて航海はできまい。しかも青商会は、『主導』と『ハブ』という前人未到の大海原へ漕ぎ出そうしている。

朝鮮の統一政策大転換方針

2024年の始まりに、朝鮮は統一政策大転換方針を打ち出した。韓国を同族と見なすことなく『第一敵国』として扱い、その思考から出発する対内外政策を開いたのである。その目玉は軍事力の強化と『20(の地方都市)×10』である。

物事には理由がある。さて、まずは朝鮮がなぜこのような政策を敷いたのかを考えてみよう。(評価は各々がすればよい)

ここ最近、朝鮮はこれまでの対米対話(おそらく対日対話までも含む)や南北平和統一のための会談などに関して『一度冒険はしてみた』と評している。この『自己総括』は先んじた朝鮮の政策に関してのかなり高いレベルの否定とみていいであろう。

(詳説はしないが)屈辱的な韓日条約の締結とともに完成された米韓日の三角軍事同盟は、東西冷戦という大きな枠組みの中で『朝鮮での戦争』を念頭に置いて機能してきた。60年代以降38度線に積極的に配備された核兵器(その数じつに1000発)やアメリカ発の最新鋭ロケットおよびミサイル。そして潜水艦とステルス機による空海訓練に航空母艦までも動員された米韓軍事演習は、いつの日も朝鮮に『平穩』を与えなかった。

60年代に朝鮮側も中国、ソ連とともに防衛修好条約を結び『東の三角軍事同盟』ともとれる体制を作ったが、冷戦崩壊後、三角軍事同盟と

相対するのは朝鮮のみとなった。その先は90年代の『苦難の行軍』と呼ばれる時代が続き、今に至る。

3つのフェーズと現住所

朝鮮はこれまで3つの段階を踏んできた。①『苦難の行軍』からの脱却。②『核武装による戦争状態の強制終結』、③『経済制裁VS自力更生』だ。すべてのフェーズについては割愛するが、『強くなってみないと分からない』という強固な決心のもと朝鮮は現在社会主義の全面的発展を目指し闘っている。

『全面的』という言葉は、2方面からとらえられる。

一つは政治・経済・文化・軍事のバランスである。朝鮮は決して軍事国家ではないし、すべての部門の均等的発展を目指し建設を推し進めている。

もう一つは、都市と農村、階級間における格差の解消だと言えよう。それを象徴するものが20(の主要地域)×10(年)の経済建設戦略である。いくら政治的用語で塗り固められようと、各地方で暮らす人民が生活の恵沢を受けられないのであれば、『社会主義万歳』は聞こえてこない。そんなことは朝鮮が一番分かっている。地方地域のボトムアップと経済的偏向の解消、部門ごとの奇形的発展の解決を狙っているのは間違いないであろう。

大転換方針

さて、このような段階を踏んで朝鮮半島情勢を見ることができるのであるが、問題は統一政策の大転換ということに関して、もっぱら関心が多いであろう。

朝鮮はこれまで一貫して『**祖国統一**』を目指し闘ってきた。汚辱の歴史を忘却することなく真の独立こそ統一という政策をもって独立統一という理念から逸脱することなく闘ってきたのが朝鮮である。これはまず間違いない。

しかしながら先述したように、外交や統一問題に関してのこれまでの政策と施策を『**冒険**』とまで比喩した朝鮮の心内やどうであろうか。

止まることのない戦争状況の強要、経済封鎖、政治謀略策動、文化的抑圧。この**反対闘争**の中で**国家建設を推し進めてきた朝鮮が**やっとな腰を上げるときが来たとき、南はどのように**対応したのか**。自主的に推し進めることのできる政策を引っ込め、帝国側に追従し、今となっては日本まで巻き込んだ過去最大規模を塗り替え続ける軍事演習。

対話—決裂—緊張、この繰り返しに終止符を打つつもりで臨んだ2018年と2019年そしてその後の情勢から朝鮮は、ある一つの結論を出したに違いない。『**力で終結させる**』。

要はアメリカとの闘いに終止符を打つのは力ではない。それでも力を少しつけるたびに、対話の努力をしてきた。その夢は潰えた。強VS強、力VS力の関係性の逆勢力に韓国は思い切り主力として食い込んでいる。(残念ではあるが)

その闘いを決心した『今の』朝鮮にとって『同族』『今はまだかなうことのない統一』という言葉は飾り言葉にしかならない。よって統一政策を大転換したのであろう。(そして『**大転換**』=『**放棄**』ではないのである)



我々の立ち位置

歴史という大河の中で今の流れがある。今最も大事な視点は、『**宗教的に信じる**』などという言葉ではない。**厳然たる歴史を見つめ、自主という理念を遂行せんとする朝鮮について知る**ことではなかろうか。簡単に捨てられるものではない。逆説的になるが、捨てられないものだからこそ、『捨てる覚悟』を持たねば守ることもできないのである。朝鮮の覚悟とその経緯、今を生きる我々は冷静にそれを見つめてみる必要がある。

千篇一律、形式主義、うわべの言葉をはいて自己満足をするのはやめにしよう。

『今の状況』を言い訳にして、歩みを止めることほど愚かなことはない。

人は各々の信念に従って生きる。そして、組織は理念に沿って動く。

『**豊かな同胞社会のため、コッポンオリの未来のため**』

今一度、この変わらない理念を見つめなおそう。自ずとわれわれの責務が見えてくるであろう。

日本に生きて、日本に根をはり生きてきた(生きていくであろう)在日同胞。しかし、日本に生きようとも立派に生きようと。チョンサラムとして生きようと必死に生きてきた先代たち。

時代が変わり方法が変わっても変わらないもの。これを心の芯に打ち込み、ハッキョと子どもたちを守り、同胞たちの未来を守るという不変の立ち位置を持つのが青商会と知っている。

『**主導**』と『**ハブ**』。われわれが目指す目標は簡単に遂行することはできない。

第28回総会に向かって、『何のために?』を問い直し、『何を?』に答えを見出し、地方地域で熱意溢れる活動が生まれることを期待してやまない。

「ウリ民族フォーラム2023 in 三重」を振り返る



西東京フォーラム 直前 特別企画

▼写真中央・金哲奎三重会長



2023年9月、三重に走る衝撃 #01

2023年9月17日。三重県桑名市にある柿安シティホールにて、ウリ民族フォーラム2023 in 三重が行われた。ウリ民族フォーラムが三重県で行われるのは、1995年に北海道で初めて開催されて以来、初のことだ。ここに総聯中央・許宗萬議長、総聯三重県本部・金鉉二委員長、中央青商会の金敏寛会長、各団体代表、県内外の同胞、出演者を含むおよそ1500人が参加した。「イオガジャ!三重!」をテーマに展開されたウリ民族フォーラムは、終始、観客たちに刺激と感動を与え、全同胞が涙した。2023年9月17日は、まさしく三重県同胞社会に新たな歴史が刻まれた忘れられぬ一日となった。



汗を流す。言い訳はしない。 #02

遡ること2022年10月、三重県青商会総会で新しく会長に就任した男。金哲奎(キン・チョルギユ)。金会長は総会締めめの挨拶で、三重県青商会全会員の想いを代弁した。「ウリ民族フォーラム2023 in 三重を必ず大成功させる。そのために1年間言い訳をせず、汗を流していこう」。

三重県にたった一つのウリハッキョ、四日市朝鮮初中級学校。金会長をはじめとする三重県青商会会員たちの母校だ。彼らが学校へ通っていた学生時代、学生数もそれなりに、学習と部活面で数々の実績を残した。1994年には中級部サッカー部が「中央体育大会」で優勝し、日本一にも輝いたほど。まさに文武両道のウリハッキョだ。

しかし2000年代に入ると学生数が激減し、今では全校生徒20人程度となってしまった。学生数の縮小は、三重県同胞社会にも少なからず影響を与えた。それでも三重県にひとつしかないウリハッキョを守っていこうと、支部、青商会、女盟、朝青、学校は一体となった。「青商会が主導とハブとなり、三重県同胞社会とウリハッキョを守り、次世代へと永続的に繋いでいきたい」そんな願いが詰まったのが、ウリ民族フォーラム2023 in 三重だ。そして、三重県青商会は1年間、汗を流し、準備に没頭した。

ウリハッキョに通う園児学生らによる合唱で始まったフォーラムは、序盤から観客の涙を誘う。その後、映像で三重県同胞社会の歴史を振り返った。第2部では三重県各団体の代表たちがパネラーとして登壇し、三重県同胞社会と民族教育を未来に繋いでいくための活動内容を報告した。

フィナーレは圧巻だった。四日市朝鮮初中級学校伝統の「チャンダン」が披露されると、会場はその姿に釘付けとなった。演奏者は朝青三重を中心とした若者だ。学生時代に幾度も金賞のタイトルを受賞した勇者たちだ。数年後には青商会世代に台頭する彼らの演奏には、並々ならぬ決意が込められていた。そして農楽「青山里の豊年」へと続いた。

金会長が最後に残した挨拶の言葉。(朝鮮新報より抜粋)
「今日のフォーラムは三重県同胞の新たな歴史を記す始まりに過ぎない。1人の100歩で歴史は変えられなくても、100人の1歩が未来を創造する。未来に向けた1歩をともに踏み出そう」。

100人の1歩が創造する未来



そしてバトンは西東京へ... >>>

チーム「チャンメ」

部長紹介

名前：金哲奎（キン・ Cholギョ）

年齢：42歳

出身校：四日市朝鮮初中級学校—愛知朝鮮中高級学校

職業：会社役員

青商会歴：6年「2022年に三重県青商会会長就任」

好きな言葉：イオガジャ！三重！



金哲奎チーム長にインタビュー

1 今期中央青商会では、新しく「チャンメ」という部署が生まれました。改めて、「チャンメ」とはどういう役割をするのかを聞かせてください。

1

もともと中央青商会・生活文化部の中にあつた地方サポート事業を今期から独立させ、地方サポートに特化させた、今期中央青商会が新たに立ち上げた特別部署になります。

役割とえば、中央青商会のサポートを必要とする地方があれば、全国どこへでも飛んで行き、地方青商会と同胞社会を共に盛り上げていくことです。まさにウリナラの国鳥である「チャンメ（大鷲）」のごとく飛びまわります。

2 当初、「チャンメ」チーム長に任命されたときの気持ちはどうでしたか？

2

ウリ民族フォーラム2023 in 三重が終わり「さあ、これからだ！」と地元で頑張ろうとした時に「チャンメ」チーム長として、全国を飛び回ってくれと依頼されたときは正直に「マジか…」と思いましたね。しかし、昨年フォーラムを開催するにあたり全国の同胞や青商会同志たちから本当にたくさんの勇気をもらい、また激励、応援をいただきました。「今の自分にしか話せないこと、今の自分にしかできないことがある」そう思い、すぐく微力ながらも全国の同志たちの力になれるのであればと覚悟を決めました。そのような経緯で「チャンメ」チーム長を引き受けることとなりました。



3 「チャンメ」としての活動の年間計画をどのように立てましたか？

3

今期から新たに立ち上がった部署なので、何をやればいいのか、どのように動けばいいのか初めは手探り状態の中でスタートしました。その中で幾度となく、チャンメメンバーたちと協議を重ね、地方青商会とも話をした上で、

- ①今期は東北、奈良、広島をサポート重点地方とすること
- ②その他地方でも声がかかれば、すぐさまチャンメのごとく飛んで行くこと

以上のように活動計画をたてました。

4 今期「チャンメ」の主な活動について聞かせてください。

4

サポート重点地方に出向き、幹事会に参加し、一緒にイベントなどの協議をして、その中で自分が出来ることをサポートしました。東北ではオール東北プロジェクト総会、北東北青商会総会、東北ブロック研修会、岩手、秋田で開催された東京歌舞団公演ツアー。奈良では奈良トライ人フェスタ2024、奈良県青商会総会。広島では中四国ブロック研修会、広島チャリティーコンペ等。「チャンメ」チーム長として上記地方青商会から逆に刺激を受けています。

5 「チャンメ」の活動を通して、新たに気付いたことはありますか？

5

地方によって同胞社会の規模が違い、また地方によって様々な悩みや問題があります。今、全国の同胞社会が抱える問題は規模の大小に関わらず、どこも同じということを感じました。岩手と秋田で開催された東京朝鮮歌舞団公演ツアーに参加しましたが、会場が数年ぶりに同胞たちと顔を合わせ話が弾み、笑顔あふれる姿や、公演を観覧し目頭が熱くなる姿を見た時に、胸があつくなりました。後日ある東北の同胞から青商会あてに感謝の手紙が届きましたが、とてもうれしかったです。一世二世が築き上げたこの在日同胞社会を僕たちは絶対に守っていかなくてはいけない。そして次に繋いでいかなければいけない。言い訳をせず、誰よりも汗をかき、共に活動する同志たちが全国にいること、今、自分が青商会として活動できることを誇りに思います。

6 全国の会員たちへメッセージをお願いします。

6

中央青商会の特別部署チャンメということで、「なかなか声を上げづらい」「そんな簡単には呼べない」という声をお聞きしています。声を上げていただかないとチャンメは飛べないのです。どんなことでもいいので、いつでもチャンメを呼んでください。全国どこへでも飛んでいきます！

今月号も必見！朝青紹介コーナー！
朝青から青商会へ、未来へのバトン繋いでいきましょう！



朝鮮青年社が65周年 朝青直属の出版宣伝機関

65年前である1959年に朝鮮青年社が創立されました。1959年はやっと祖国往來が始まった年で、SNSなど情報通信手段も無く、タイムリーに祖国の情報を知ることが難しい状況でした。しかし同胞青年たちの「祖国について知りたい」「ウリマルを学びたい」という要求は日に日に増すばかり。そんな要求に応えるために、朝青第5回大会で朝青直属の出版宣伝機関・朝鮮青年社の創立が決まりました。創立、運営に関する費用は朝青員たちのカンパにより賄われました。まさに「同胞青年のために、同胞青年によって」作られた機関と言えます。

ウリハッキョに通ったことがなくウリマルを知らない同胞青年を対象にした雑誌『新しい世代』から出版宣伝活動を始めた朝鮮青年社は、時代のニーズに合わせ変化を重ねながら、現在は二つの機関誌を発刊しています。朝青員を対象にした『セセデ』と、少年団員を対象にした『朝鮮少年』。

祖国や同胞社会の情報をタイムリーに知らせるのはもちろん、機関誌という名の通り『セセデ』では朝青運動、『朝鮮少年』では少年団運動の方針を解説しながら、各地の成果を宣伝することで運動を牽引する役割を果たしています。



48ページで構成される『セセデ』



月2回発刊の『朝鮮少年』

65周年を迎え朝鮮青年社は、機関誌の質を高めながら購読者を増やすために記念事業を行っています。記念クリアファイルや購読案内チラシ、LINEスタンプを作る一方で、創立日である6月15日には東京で記念行事を催し、日本各地から朝青員たち100人以上が集まりました。朝鮮青年社が歩んできた65年の歴史を振り返りながら現役編集員たちの決意も披露し、朝青の中で機関誌を活用し運動を盛り上げる重要性を確かめた一日となりました。朝青では今後も機関誌を利用した学習、宣伝を幅広く行なっていきます。



朝鮮青年社創立65周年記念行事

8月のスケジュール

日にち	時間	内容	日にち	時間	内容
8月3日	-	東北ブロック みちのくKKフェスタ	8月10日	-	西東京民族フォーラム 実行委員会
8月3日	-	山口 コリアンフェスタ	8月11日	-	三重青商会 コリアンフェスティバル
8月4日	-	兵庫県青商会 コリアンスプラッシュ	8月23~ 25日	-	中四国ブロック 〈ピカミレキャンプ〉
8月8~ 9日	-	九州青商会 エキサイティングキャンプ	8月25日	-	西東京青商会 アクアアドベンチャー2024
8月10日	-	新潟県青商会 ピピンパフェスタ	8月31日	-	広島青商会 ヒロキョレフェスタ